

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105198
法人名	社会福祉法人 陽光会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島市吉野2丁目4-8 (電話) 099-295-7878
自己評価作成日	H27年9月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念「思いやりとやさしさの気持ちで地域にとけこむ施設を作ります」に基づき、ご入居者様お一人お一人に思いやりとやさしさを持って接しております。毎週火曜日に定例会とカンファレンスを行い、施設長・全職員が参加し、情報共有を図りより良いケアが出来るよう日々精進しています。

住宅地の一角に立地している事もあり、地域の方々と良好な関係性を築くために町内会へ加入し総会や運動会に参加させて頂く事で地域の方にグループホームを周知して頂き、理解と協力が得られるよう努力しております。

法人は、介護老人福祉施設、ケアハウス、単独型短期入所生活介護施設、サービス付高齢者向住宅、通所介護、訪問看護・介護、居宅支援事業所を開設しており、ご入居者様が長期入院となり退去された後も法人全体で連携を図り、ご本人・ご家族の不安が無くなるよう状態に応じたサポートをさせて頂いております。当グループホームと併設の訪問看護ステーションとは医療連携を図り、週1回看護師が定期訪問を行いご入居者様の健康チェック、介護職員へのアドバイス、緊急時の対応にも備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○管理者及び職員は、ホームの理念と法人の理念、基本方針に沿ったケアの実施に日々努めており、理念をより判り易く具体的にした「グループホーム職員の心得15か条」を全員で作成し、朝夕の申し送りを行う事務室に掲げて認識を深めている。利用者の人格や誇りを大切にしながら意向の把握に努め、利用者が馴染みの人や場と関わりながら、その人らしく穏やかに過ごせるようにきめ細かな配慮をした支援に取り組んでいる。

○重度化や終末期のホームの対応については、利用者及び家族に指針に基づいて対応を説明し希望に添ったケアの実施に取り組む意向である。これまで1件の看取りを実施しているが、今後は利用者の高齢化と重度化に伴い、ホームでの対応希望の増加も予想される。職員のスキルアップに努め、ホームの2階に併設されている訪問看護施設や、法人母体の協力医療機関との密な連携により、充実した体制の構築が期待される。

○管理者及び職員は、利用者の身体状況や気持ちに十分配慮しながら生活機能の改善に取り組んでいる。日常生活の中で利用者の食事への関心は大きく、食材の買い出しや、下ごしらえ、配膳や下膳の手伝いに加え季節毎の餅つきや金柑漬け、梅干しづくりなど楽しみながら積極的に取り組んでいる。家族との会食や行事食、弁当持参の外出、家族との外食、手作りのおやつなど食事が楽しみな物となるよう様々な工夫を行って、職員も一緒にテーブルで介助や談笑しながら食事しており、和やかな雰囲気にも包まれている。また、歌や振付を取り入れた口腔体操や口腔ケア、リハビリを行う等、楽しみながら心身の改善を図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎週火曜日の定例会で理念を唱和し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	利用者の尊厳や思いを大切に、地域の中でその人らしい生活ができるよう理念に沿った支援の実践に努めている。開設時に作成したホーム独自の理念は、法人の理念、基本方針と共に玄関に掲示し、併せて職員のネームプレートの裏面にも明記して意識付けを図るとともに、月2回開催の定例会での唱和や研修の実施及び朝夕の申し送り時に振り返りを行い認識を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の総会や町内の運動会等に参加している。近隣の方を行事ごとに招いたり、家庭菜園で収穫された旬の野菜を頂き、食事に取り入れている。	町内会に加入して、総会や清掃活動、運動会などに可能な限り参加し、またホームで実施する餅つきや敬老会、防災訓練等に地域の人の参加を得ている。中学生の職場体験や実習生の現場研修、ギターや尺八演奏のボランティアも積極的に受け入れている。日頃の散歩時の挨拶や友人知人の来訪、農産物の差し入れを頂くなど日常的に地域の人と触れ合う機会も多く、利用者はこれらの交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方々が介護相談や施設見学に訪問された際、家族が認知症になられた場合の認知症状の説明、対応の仕方を専門的立場として助言させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催している。運営推進会議では、グループホームの現況や評価の取り組みを家族に報告し、家族の意見を改めて職員間で話し合いサービスの質の向上に努めている。	会議には利用者や家族代表、民政委員、行政職員等が参加して2ヵ月に1回開催しており、利用者の現状や行事等の活動内容、外部評価の結果報告を行うと共に、介護保険制度や認知症、口腔ケア、脱水症状など毎回身近なテーマの研修を実施して、ホームの運営や利用者の状況を理解してもらっている。委員からは地域の情報やケアに関する質問が出されるなど意見交換の場にもなっている。会議の内容は議事録で共有を図りサービス向上につなげている	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	包括支援センターや介護相談員を受け入れ、日頃より連携を図り協力関係をとるように努めている。	市の担当者には、訪問や電話で各種手続きやケア及び施設運営に関する相談や意見交換を密に行い、その都度、適切に助言指導を頂いている。運営推進会議に出席して貰うと共に、グループホーム連絡協議会の活動で意見交換する機会も多く日常的に連携を図っており、協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し、日常のケアを振り返り職員同士で身体拘束と思われる行為は無かったか話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	虐待防止や権利擁護に関する研修を法人全体で計画的に実施すると共に、ホーム独自でも定例会や申し送り時に振り返りや意見交換を行って身体拘束の無いケアの修得に努めている。2カ月に1回開催の身体拘束廃止委員会では事例を基にスピーチロックや権利擁護、虐待防止についての研修や意見交換を行い、認識を深めている。昼間は施錠はしないで寄り添いや見守りに努めており、外出しそうな利用者には同行して散歩したり、興味あるレクリエーションを実施する等工夫して、利用者の安定を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎週の定例会でヒヤリハット検討会を基本に、拘束・虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や定例会で権利擁護について学んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書により契約を結ぶ際、利用料金や入退居の基準の詳しい説明を行い同意を得るようにしている。入居者の状態変化により退去に至る場合は、本人や家族と十分に話し合い納得していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族交流会や運営推進会議等において、常に問いかけたり家族が訪問された際は何でも話せる雰囲気作りや声かけを心がけている。意見箱に出された意見・要望については月1回苦情処理・業務改善委員会時に職員全員で話し合い、運営に反映している。	ご家族の意見や要望等は運営推進会議や家族会での意見交換のほか、面会時やホームの行事の際の対話等で把握を図ると共に、利用者の思いや意見は、日常の会話や所作の見守りなどで把握し対応するように努めている。出された意見や要望は連絡帳や生活介護記録で情報を共有し、改善に向けて職員全員で取り組んでおり、結果は家族にも電話や来訪時に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回の定例会やケアカンファレンス等に施設長も参加し、職員の意見や提案等を聞く機会を設け運営等に反映させている。	職員の意見や要望は朝夕の申し送りや定例会、日頃のケアの中で、また内容によっては個別面談も実施して把握するように努めている。得られた意見や要望は、職員全員で十分話し合っ改善を図り利用者へのサービス向上に具体的に反映させている。職員のスキルアップや資格取得に対しても細かに配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得に対して支援を行い、取得後は待遇の見直し等実施している。育児休暇や介護休暇を取られる体制を整備している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間事業計画書を立て、月1回の法人勉強会を行ったり、外部から講師を招き、年2回医療法人と社会福祉法人との合同勉強会を行っている。外部研修会にも機会があるごとに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入会し、研修会に参加する事で情報交換を行っている。また同グループのグループホーム管理者会議に出席し、意見交換を行い情報を共有する事でサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談や見学時に本人と家族の話を傾聴し、困り事や思いを引き出せるよう雰囲気作りに配慮し、本人・家族が安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所相談時に家族の話をよく傾聴し、不安に思っている事や要望等を把握する。また、担当ケアマネジャーとも連携を図り、情報収集、現状を把握し信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談を受けた時に、入居前アセスメントを行い、必要なサービス内容を検討し、入居の際にサービスを受けられるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から旬の野菜の調理方法や季節ごとの行事等、昔から伝わる風習を教えていただいて知恵をお借りしている。また、入居者ができることは一緒に手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から入居者の様子をお話ししたり、入居者本人の写真を通信便りに添付してお送りし、現況をお伝えしている。適宜連絡を行う事で家族と協力しあって本人を支えていける関係性構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺の友人、知人も面会に来ていただいたり、自宅の町内会行事に参加されるなど、馴染みの人や場所との関係が継続してできるように支援している。	利用開始時に本人や家族、関係者から、これまでの馴染みの人や場、生活の状況、趣味・嗜好等を細かく把握し、「入所前情報」や「基本情報」で共有を図っており、馴染みの人や場との関係の継続に努めている。家族や友人知人の来訪時には和んで過ごせるようにお茶や面会の場所を配慮したり、買い物やドライブの外出、家族による外食や墓参、通院の他、遠方の家族との電話や手紙の取り次ぎ等、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの身体状況、性格を把握し、食堂の座席配置等を考慮して利用者同士が関わり合いを持てるよう環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や暑中見舞いなどを利用してお互いに近況報告を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人の希望を聞き、家族の面会時に本人を交え思いを家族に伝えている。本人の希望が困難な場合でもより本人の思いになるべく近づけられるよう試行錯誤して支援を行っている。	思いや意向を、利用者及び家族との日頃の関わりの中で適確にくみ取るように努め、申し送りや「連絡帳」「支援記録」で内容を共有し、家族とも相談しながら、ケアプランにも反映させて利用者の気持ちを大切に本人本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込時に本人や家族、それまでの生活環境で関わっていた方々から情報を得てアセスメントし、ケアプランへ反映している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムや心身状態を理解するように努め、できる事やできない事を把握するように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に対して思いや意見を聞くための話し合いの機会を持ち、週1回の定例会でチーム全体で情報を共有し、利用者の現在のニーズを的確に捉え計画を作成している。	本人及び家族の意向や、主治医の指示指導を基に、担当職員を中心にモニタリングやカンファレンスを行い、きめ細かな介護計画を作成している。計画の内容は利用者や家族にも説明して理解を得ており、ケアの状況は「生活介護記録」や「連絡帳」で共有している。身体状況の変動に対しても、随時、計画を見直して実情に添った支援に努めている。		

自己評価	外部評価	自己評価		外部評価	
		項目	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が毎日、入居者の状態変化や気づいた事をケース記録、業務日誌、連絡ノートに記入し、勤務開始前に各自確認する事で情報の共有化を図り、職員間のケアの実践や介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族、その時々現れるニーズ（外出、買い物、病院受診等）に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、公園を散歩したり住民の方々とのコミュニケーションを図る事で社会との繋がりを得て、心身の充実が感じられるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により連携先の主治医の受診や往診を実施している。	利用者の病歴や受診の経過は把握されて、本人や家族が希望する医療機関で受診できるように支援しており、利用者の殆んどが協力医療機関の往診を受けている。通院は家族の同伴が基本であるが、必要に応じて職員が同行しており、受診の結果は主治医や家族と十分に連携が図られている。また、ホームの2階が訪問看護ステーションになっており緊急な事態にも十分対応されている。これらの受診の状況は「連絡帳」や「支援経過」に詳しく記録して情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を把握し、医療連携体制をとっている訪問看護事業所の看護師へその都度状態を伝え、指示やアドバイスを取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先のソーシャルワーカーや医師、看護師と情報交換を行い早期退院の支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及び家族が終末期をどのように考えているかを把握し、その時期がきたら主治医、看護師、職員を交えて話し合いの場を持ち、グループホームでできる支援に取り組んでいる。	入所時に重度化した場合や終末期の対応について「重度化した場合における対応に係る指針」により説明し、その後の利用者の状態に応じて医師の助言指導をうけながら最善の支援方法について関係者で協議しながら対応している。これまで1件看取りを実施しており、今後も利用者や家族の希望があった場合は、主治医や訪問看護と連携して終末期の対応の体制を整えることにしており、研修等でスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の法人勉強会の中で、緊急時の対応や看護技術の講習を定期的に受けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域の消防分遣隊とセキュリティ会社との協力を得て避難訓練を行い、災害時の対応を訓練している。また、近隣の方にも積極的に声掛けし参加していただいている。	年2回、夜間の火災を想定した通報、消火、避難の訓練を消防や地域の人も参加して実施しており、訓練後は消防署職員の災害に関する講話や、消火器等の取扱い、避難誘導等の研修を実施し、的確な対応の習得に努めている。自動通報装置やスプリンクラーが設置され、災害発生時に備えて乾パンや即席めん、飲料水の備蓄及び防空頭巾や懐中電灯、ラジオ、卓上コンロ等が備えられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症に対しての理解や人権擁護の勉強会に参加して職員の資質の向上に取り組んでいる。	日常のケアのなかで、利用者の誇りやプライバシー確保に関して不適切な対応や言葉かけを行うことのないように、日々の申し送りや定例会で振り返りや意見交換を行い、また、法人全体でも計画的に研修を実施して、適切なケアの実践に取り組んでいる。広報誌の写真や氏名登載については利用開始時に了解を貰っており、ボランティアや実習生たちにもプライバシーの確保について十分説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの能力、理解力、趣味等を把握して声かけを行い、本人が自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩やレクリエーションなど日々の活動について、その都度入居者の意思を確認し、入居者の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時や外出前に本人が鏡を見て本人が容姿を整えられるよう支援を行い、服装についても本人の希望を伺っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る際、調理方法を教わったり下ごしらえを一緒に行っている。また、手作りのお弁当を持参でお花見に行ったり、素麺流しに行ったりして食への楽しみが出るよう工夫している。	利用者の嗜好、食事形態、疾病に伴う摂取制限等を的確に把握して、栄養バランスや季節感に配慮した調理に努めている。家族会や敬老会等は家族と会食し、おせちや誕生会等の行事食、ソーメン流しの外食、利用者も一緒に餅つき、金柑漬け、梅干づくりなど食事が楽しめるように工夫し、職員も一緒に談笑しながら食事している。また食材の下ごしらえや下膳、テーブル拭きは利用者も一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分チェック表を記録し、状況の把握に努めている。入居者一人ひとりの体調や嚥下能力に応じて安全に食事摂取ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。就寝時は義歯を外して頂き義歯洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を記録し、個人の排泄パターンを把握し排泄の援助を行っている。出来るだけ日中はトイレに行って頂き、夜間のみ身体状況に応じてポータブルトイレやオムツ等を使用し、自立に向けた支援を行っている。	利用者各人の習慣や身体機能に応じて、羞恥心や不安感に十分配慮した誘導・声かけを心掛けながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。また、利用者各人に合わせて介護用品の工夫や、適度の運動、水分補給なども細かにケアプランに反映させて自立に向けた支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い物の摂取や十分な水分摂取を促している。自己排便が困難な方は主治医の指示による内服コントロールを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	要望があれば毎日入浴できるように準備している。本人の体調や希望に応じ個別入浴を行っている。	利用者の健康状態に配慮し足浴や清拭への変更を取り入れながら、同性介護や好みのシャンプーなど可能な限り希望に添った入浴を、ゆっくりとした気分で楽しめるように支援している。入浴を拒まれる利用者には無理強いしないで、時間や介護職員の変更、タイミングの良い声掛けなど工夫して、本人の意欲を待つようにしている。個浴で支援しており皮膚疾患の手当や保湿剤を塗りながら、職員と利用者が親密にコミュニケーションを図れる場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、居室やソファで休息の時間を取っており、就寝時間は決めずにそれぞれの生活習慣に合わせて休んで頂いているが日中は出来るだけ起きて活動して頂けるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方される薬の説明書をファイリングし職員は確認している。服薬は担当を決め、必ず入居者の前で復唱し、飲み込みまで確認している。服薬後は状況を見守り状態変化の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意なことを把握し、活躍の場面を作れるようレクリエーションを工夫して支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には本人の希望や状態により個別に散歩、買い物、ドライブ等に出かけている。また、法人の協力を得てお花見や素麺流し、外食等の外出支援を行っている。無理強いはしないよう留意している。	園周辺の散歩や食材の買い物、ミニドライブ、地域の行事への参加等を利用者の健康状態や天候を考慮しながら、利用者の希望に添って日常的に支援している。また、家族が同行しての買い物や外食、墓参、一時帰宅、冠婚葬祭への参加等、可能な限り外出できるように支援している。季節ごとの花見、運動会参加、他の施設の入所者との交流など外出の機会を多く企画しており、車椅子使用の利用者には同法人のリフト車を活用する等、外出が楽しみになるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の管理はできない為、預かり金としてお預かりしている。本人が必要な物や欲しい物がある時は一緒に買い物に行き欲しい物を選んで自分で買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望により電話を取り次いだり希望があれば手紙を読み上げたりしている。ご自身で返事を書かれる方へはハガキと一緒に郵便局へ行き購入することから支援し返事を声かけしながら書いていただき、ポストに投函するまで支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見渡せる中庭からの自然光を利用し、四季を感じられるような工夫をしている。トイレや浴室は安全とプライバシーに配慮した場所に設置してある。	広いリビングや廊下は明るく、利用者が作成した季節感ある貼り絵、写真などが飾られ、テーブルや椅子が適当な間隔で配置されていて、落ち着いた雰囲気の中で静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。リビング横の畳の部屋からは石灯籠や庭木が望め、また大きな仏壇と神棚も設置されており利用者は穏やかに朝夕手を合っている。日々の清掃はオキシブルで拭き清め、騒音や異臭も無く、室温や換気にも十分に配慮されており、利用者は日中の殆んどを、好みの場所で自由に気持ち良く過ごしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室に仏壇と神棚があり、入居者が朝夕手を合わせたりして精神的に穏やかになれる居場所を提供している。ホールにソファがありテレビを見たり、編み物をしたり、談笑したり思い思いの場所で時間を過ごして頂けるように環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に自宅で使用していた馴染みの物（テレビ・タンス・椅子・時計・ラジオ等）を持ってきて頂き、なるべく環境の変化が無いように配慮し、本人が安心して過ごせる環境作りに努めている。	余裕ある広い居室にエアコン、ベッド、洗面台、ロッカーが備え付けられている。利用者は、自宅から使い慣れた仏壇やテレビ写真、ぬいぐるみや小物等を持ち込んで家庭同様に居心地良く過ごせるよう工夫している。居室の掃除は利用者と職員が一緒に行っており、消臭や加湿等の空調にも十分な配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの動線の確保を行い、本人が理解できるよう表示板を使用したり安全確保の為、手摺り設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない